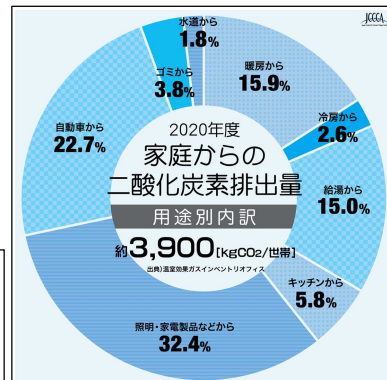


12月はエコ通勤普及強化月間です！

宮崎県では、二酸化炭素（CO₂）の排出削減に取り組むため、12月を徒歩、自転車、公共交通機関の利用などによりマイカー利用を自粛する「エコ通勤普及強化月間」としています。

また、「県内一斉ノーマイカーデー」である12月7日（水）には、宮崎市地球温暖化対策地域協議会の会員や、みやざきエコアクション認証事業者の皆様と共に、ノーマイカーデーに取り組みます！

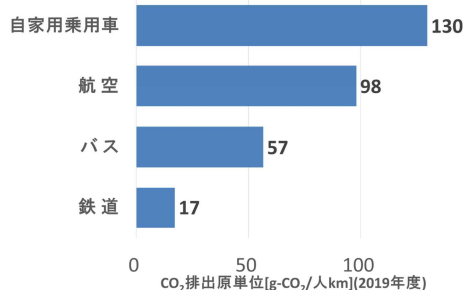
やむを得ず、マイカーを利用する場合にも、乗合せやエコドライブにより、CO₂の排出削減に取り組みましょう！



↑家庭からのCO₂排出量のうち、22.7%が自動車によるものです。

出展：JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター「4-06 家庭からの二酸化炭素排出量（2020年度）」
<https://www.jccca.org/download/65499>（最終アクセス 2022年11月21日）

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)



← 1人を1km運ぶことで排出されるCO₂の量は、
自家用乗用車で130、バスで57、鉄道で17で、マイカーを使用すると、公共交通機関を使用する場合に比べ、2倍以上のCO₂を排出することになります。
 （単位はg-CO₂/人km）

出展：国土交通省「環境：運輸部門における二酸化炭素排出量」
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html
 I>（最終アクセス 2022年11月21日）

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動が開始されました！

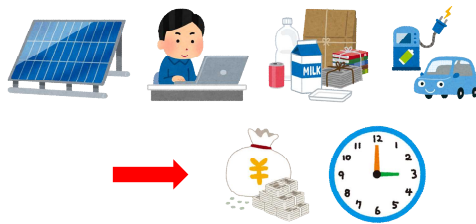
環境省は、2050年カーボンニュートラル（ゼロカーボン）や2030年度の温室効果ガス排出削減目標の実現に向け、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動を開始しました！

今回は、その国民運動の一部を紹介します！

○今から約10年後、生活がより豊かに、より自分らしく快適・健康で、2030年温室効果ガス削減目標も同時に達成する、新しい暮らしの提案

国民運動のサイトで紹介されている、脱炭素につながる将来の暮らしの全体像・絵姿によると、

太陽光発電、住宅の断熱化、テレワーク、省エネ家電、地産地消・食べきり、節水、ごみの削減・分別、公共交通・自転車・徒歩、次世代自動車などの新しい暮らしで、**毎月3万6千円節約**になると共に、**一日プラス1時間以上時間の余裕**が生まれるということです！



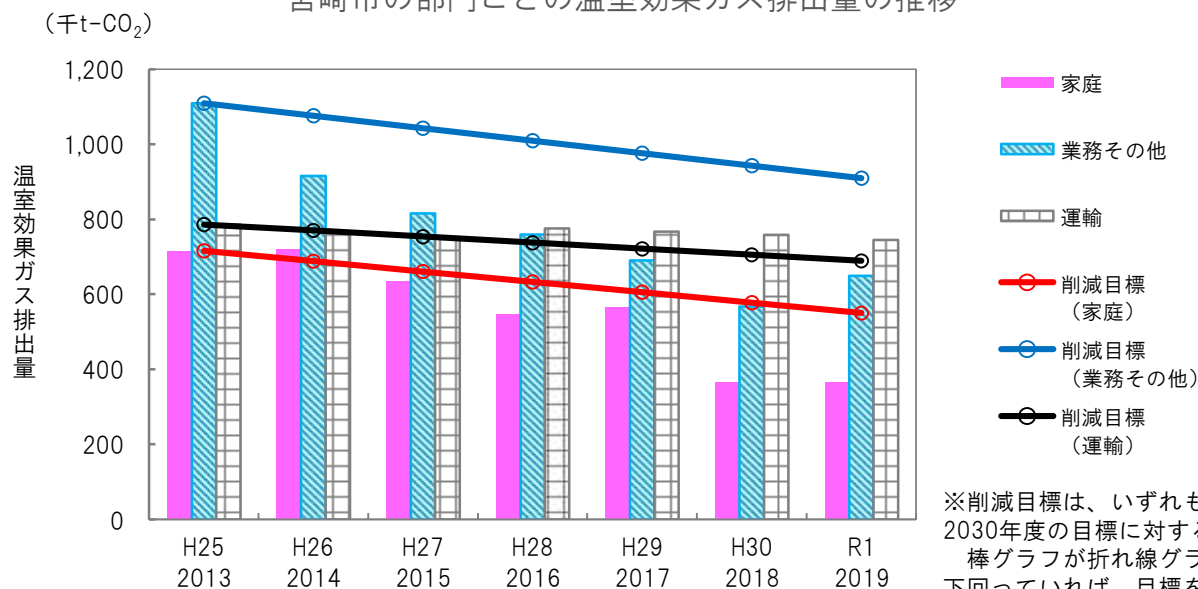
このように脱炭素に向けた取組には、CO₂削減だけではなく、お金・時間・健康など様々なメリットがありますので、できることから始めてみましょう！

出典：環境省「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」
https://ondankataisaku.env.go.jp/cn_lifestyle/
 （最終アクセス 2022年11月21日）

ちなみに、2030年度の温室効果ガス削減目標のうち、国が示す部門別の削減目標は、**家庭部門が66%削減、業務その他部門が51%削減、運輸部門が35%削減**です！（いずれも2013年度比）

宮崎市の直近のそれぞれの削減率が**家庭部門が48.8%削減、業務その他部門が41.5%削減、運輸部門が5.3%削減**（2019年度）なので、2030年度や2050年ゼロカーボンシティの目標に向かって、今後も脱炭素に向けた取組を続ける必要があります。

宮崎市の部門ごとの温室効果ガス排出量の推移



※削減目標は、いずれも国の2030年度の目標に対するもの。棒グラフが折れ線グラフを下回っていれば、目標を達成しています。

大淀川環境保全クラブの活動紹介

保全クラブでは、市内の小学生を対象に年6回にわたり大淀川の保全活動を通して、自然環境や生態系の維持を図るための学習を行っています。

9月には、天満橋下の小川に生育する希少植物を観察、その保全方法を考えて保全活動を行いました。

その後、清山市長と一緒にカヌーに乗って、川の水辺の生き物の様子を観察しました。

この様子は後日、大淀川流域の4市4町が組織する大淀川サミットの啓発活動の一つとして、MRTの情報番組「Check！」で特別番組として放映されました！



希少植物を観察する様子



市長と一緒にカヌーに乗って水辺の生き物を観察する様子



12月にある保全クラブの最終回では、これまでの活動成果をまとめた発表があります！

○編集後記

今年も残り1ヶ月ほどになり、朝晩は肌寒い日が続いています。そろそろ暖房が恋しい時期になりますが、暖房をつける前に4つの首（首・手首・足首・くびれ（お腹））を効率よく温めることで、健康には注意しつつ、無理のない範囲で省エネルギーに取り組みたいと思います。